

CISEA : Centro de Investigaciones Sociales sobre el Estado y la Administración

小坂允雄

(在ブエノスアイレス海外調査員)

ブエノスアイレスの社会科学系研究機関には、伝統を誇るトルクワット・ディ・テリャ研究所から分離、独立したものがいくつかある。このセンターも1975年、同研究所の行政研究センターを母体として設立された。センターの目的は、その名称が示すように、国家と行政の問題を研究することにあるが、実際の研究領域は、関連する政治・経済・社会分野を含めた多岐にわたっている。研究テーマは、(1)国家と社会、(2)農業、(3)工業、(4)金融、(5)社会、(6)社会経済史、の6部門に大別され、各部門には、1人のコーディネーターの下でいくつかの研究グループが組織されている。これらのなかで、重点が置かれているのは、ラテンアメリカの工業化に関するものである。



所長室でのシュバルセル所長と小坂海外調査員

とくに、その展開過程を、企業・企業者史からとらえようとする点に、このセンターの特色がある。アルゼンチンにおいて、この分野の研究はまだ十分にはなされていない。個々の企業はそのデータ公開に消極的で、オリジナルな資料も入手困難であるが、このセンターには、比較的多くの資料・データやそれに関する研究業績が蓄積されている。所長のJorge Schvarzerは、この分野の研究の第一人者で、また、10年前から毎年刊行されている*Prensa Económica*誌の企業ランキングの編集責任者でもある。その他のテーマとしては、民主化、累積債務、パンパ農業などが重要である。

センターは、これらの研究活動に付随して、他の

研究機関と共同で、講演会・セミナーの開催、大学院コース等の設置を積極的に進めている。この面では、同じくトルクワット・ディ・テリャ研究所から独立して創設されたInstituto de Desarrollo Económico y Social (IDES)と関係が深い。また、本年10月には、CLACSO(ラテンアメリカ社会科学協議会)と共同で、「ラテンアメリカの工業化の起源」に関する国際シンポジウムを開催した。この会議では、アルゼンチンを中心に、ラテンアメリカ各国から26の発表がなされた。

センターの研究成果は、主として、Documentos de Trabajo de CISEA シリーズとして出版される。このシリーズは、10年間に29冊刊行されている。他に、社会経済史、農業に関するシリーズもある。機関誌としては*El Bimestre Político Económico*が刊行されている。図書室はいまのところ小規模なものであるが、近い将来、端末装置を置き、研究機関間のネットワーク利用を計画している。

センターの総人員は約50名で、比較的規模は大きいですが、専属の研究者の数は少ない。その運営は、創設当初の7人の研究者が構成する審議会が中心となって行なわれる。これには、所長のJ. Schvarzerをはじめ、現外相のDante Caputo、行政問題のEnrique I. Groisman等が含まれている。センターの主たる財源は、国内では、公的機関であるCONICET、海外では、フォード財団、カナダのIDRC等からの研究助成に依存しており、個有の財源を有していない。事務所は、1911年に建てられた壮大なビルディングの6階にあり、手でドアを開閉するエレベーター、木製の重い大きな扉、高い天井など、アルゼンチンの良き時代の雰囲気にも包まれている。

所在地 Pueyrredón 510, 6° Piso
1032 Buenos Aires, Argentina
TEL. 87-8284, 87-7874